

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

## じよ や 除夜の鐘

平成28年12月第4週放送

今年もあとわずかとなりました。皆さまの中には年の終わりに除夜の鐘を撞きにお寺に行く方もいらっしゃる事と思います。

「除夜」は、旧い年を除く日の夜、つまり大晦日の夜を表し、その時に撞く鐘が除夜の鐘です。この鐘は、一般的には百八回撞くとされています。百八は、煩悩の数ともいわれ、鐘を撞き 鐘の音を聴く事によって煩悩を払うともされています。

禅宗の修行道場で鐘を撞く際に唱える言葉に「鳴 鐘 の偈」があります。

「三塗八難 息苦停酸 法界衆生 聞声悟道」

(さんずーは一なん、そくじょうさん、ほっかいしゅじょう、もんしょうごどう)

ありとあらゆる者達が、この鐘の音を聞いて、苦しみを脱して仏の道を悟りますように、という意味です。苦しみの原因となるのが煩悩ですので、鐘を撞くこと、またその音色を聴くことは、煩悩を払うことと繋がりがあられるようです。

ところで、鐘の音というと、思い出される言葉があります。

ぎおんしょうじゃ かね こえ しょうぎょうむじょう ひび  
祇園精 舎の鐘の聲、諸 行無常の響き有り

さらそうじゆ じょうしゃひつすい ことわり  
沙羅双樹の花の色、盛 者必衰の 理 をあらはす。

『平家物語』の冒頭の言葉です。

鐘の音には、“無常”という、すべてのものは常に変化し、同じところにとどまることはないという響きがあり、そしてお釈迦さまが亡くなる際にその間に横たわり、お亡くなりになると白く枯れてしまったと伝わる沙羅双樹の花の色は、盛んな者も必ず衰えるという道理を示すという意味。

鐘の音に“無常”を感じ、平家一族の栄枯盛衰を重ね合わせた名も知れない作者とそれを伝えた琵琶法師たち、そしてそれに魅せられた民衆がいたこと……。

鐘の音に、仏教の基本である「諸行無常」を感じ、今年一年を振り返り、さまざまな方々とのご縁を感じ、新しい年に向けて、私たちの苦しみの原因となる煩悩を滅することを願いながら鐘を撞く……。

ぜひ、今年の年末は、除夜の鐘を撞きにお寺に足を運んでみてはいかがでしょうか？

— 終 —